

平成22年度 佐賀県立香楠中学校 学校評価結果

1 学校教育目標
高い知性、豊かな人間性、たくましい心身を培い、高邁な使命感をもって地域や国家、国際社会の発展に貢献する人材を育成する。

2 学校経営ビジョン
(1) 6年間の中高一貫教育を通して、生徒の自己教育力を育成する。 (2) 学校設定教科「サイエンス」「コミュニケーション」により、科学的・論理的思考力とコミュニケーション能力を育成する。 (3) 徳育に配慮した様々な教育活動を行い、豊かな人間性を育む。 (4) 危機管理を徹底する。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1) 授業の充実に努め、家庭学習の習慣化を図る。 (2) 中学生として望ましい生活習慣を身につけさせる。 (3) 部活動・学校行事に全力で取り組む生徒を育てる。 (4) 中高一貫の特性を生かした教育活動を充実させる。	前年度に中学校が全学年そろい、開校時に計画していた教育活動が実践され、中高一貫教育校としての一定の成果が得られたところであるが、一方で新たな課題も出てきている。本年度は、中高一貫教育校の第二ステージの開始ととらえ、これまでの教育実践を点検しながら、重点目標や評価項目の重点化を図ることとした。

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	○学校経営方針	中高一貫教育校としての中・長期ビジョンの周知	・中高6年間の中・長期ビジョンについて中学校・高校の職員が共有できるようにする。	B ・グランドデザイン作成については現在取組中である。	・本年度中にこれまでの中高一貫教育の成果と課題を検証し、香楠中学校・鳥栖高校のグランドデザインを作成する。	・学校経営ビジョンとともにグランドデザインを提示し、教職員の共通理解をはかり、ビジョン達成につなげていく必要がある。
	○教職員の資質向上	教科指導力の向上と中高6年間を見通した指導方法の工夫	・中高合同の研究授業を各教科年2回以上実施する。	B ・多くの職員が相互に授業を見ることができるよう、公開授業週間を2学期に実施した。	・研究授業後の合評会では、中高の学習指導の連携についても協議する。	・公開授業には中学校だけでなく高校からも参観をする職員がいた。来年度は各学期1回以上に以上は実施したい。
	○開かれた学校づくり	保護者への授業公開と情報提供	・各学期1回以上、公開授業を実施する。 ・ホームページ、EDQニュースを月1回以上更新する。	A ・「香楠だより」(学校だより)を月1回発行することができた。また、ホームページの更新を月1回以上行い、「香楠だより」も毎月掲載した。	・4週間前には保護者へ案内を出し、出席率を前年よりも上げる。 ・ホームページでは行事や保護者への連絡事項に加え、生徒の学校生活が分かる記事を掲載する。	・「香楠だより」は学校全体の連絡事項等を中心に発行したが、各学年、各分掌等の連絡事項も掲載していく必要がある。

教育活動	●学力向上	授業の充実 家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」をめざし、生徒の授業満足度を80%以上とする。 生徒の家庭学習の時間を1日平均2時間以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業満足度は81.6%あったが、1日2時間以上の学習をしている生徒は、39.6%にとどまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに授業満足度調査を実施し、授業の工夫・改善の参考とする。 定期的に学習時間調査を実施し、生徒の学習状況を把握し、指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習については、その方法や内容について、モデルを提示するなどして、学習の習慣化を指導していく必要がある。
	●心の教育	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「朝の10分間読書」を実施し、生徒の豊かな感性と創造力を育む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の期間中を除き、すべてのクラスで静粛な雰囲気の中で実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「朝の10分間読書」は、本年度からの実施となるため、生徒の状況をみながら実施方法を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も引き続き実施していきたい。
	●健康・体づくり	中学生として望ましい生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 早寝早起きなどの規則的な生活習慣を身につけさせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の出席率が99%を超え、生徒の多くが規則的な生活習慣を身につけることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に生活アンケートを実施し、現状を把握して不規則な生活をしている生徒については、面談等で指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の中には、睡眠時間が少ないものがあり、健康面での指導が必要である。
	○生徒指導	社会生活における規律・マナーの育成	<ul style="list-style-type: none"> 他人の気持ちや考えを尊重し、常に思いやりをもって行動する態度を育む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会のルールやマナーについて、学校の指導は熱心であるが85.3%の評価を得ているが、一つ一つ指導されないと理解できない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ」が社会生活の基本であることを日常的に指導していくとともに、朝の会・帰りの会、集会等で規範意識を高める指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「道徳の時間」「学活の時間」等を利用して計画的に規範意識について指導していく必要がある。
特定課題	○中高接続	中高の授業連携 中学3年生の中だるみの防止 部活動の中高接続	<ul style="list-style-type: none"> 高校教員による中学での授業やガイダンスの機会を増やす。 中学3年次の卒業レポート「ういまなび」を作成させることにより、探究心を育て、高校の学習に向けての動機付けを行う。 部活動を高校まで継続する生徒の割合を増やす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 中学3年生に対して、高校職員とのガイダンスに加えて、高校1年生によるガイダンスを実施することができた。 中学3年生が卒業論文を完成することができた。 昨年度よりも、高校の部活動の練習に参加する中学3年生が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学3年生を対象とした教科ガイダンスの時期を早め、中学3年生後半の学習の目標を明確にする。 中間発表会を実施することにより、各生徒に進捗状況を意識させることにより、自分のレポートの課題について考えさせる。 中学3年生が中体連以降も部活動を継続できる練習形態について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習面での中学校と高校との接続を円滑に行うために、中高6年間を見通したシラバスの作成が必要である。

6 総合評価

本年度の重点目標は概ね達成された。なかでも「保護者への授業公開と情報提供」、「読書活動の充実」、「中高接続」に関しては前年度以上に成果が上がったと評価できる。しかしながら、「家庭学習の習慣化」については、家庭学習の時間に関する調査は行ったが、例年からの向上はあまり見られなかった。

7 来年度の改善策

家庭学習については、生徒一人ひとりの学力向上にとって、どのような家庭学習が必要なのかを職員間で共通理解を図る必要がある。そして、生徒に対して具体的な方法や内容についてモデルを示すなどして、生徒が家庭学習に取り組みやすい環境をつくる。

●は共通評価項目、○は独自評価項目